

短期予報解説資料 2026年2月15日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5220m付近の寒冷渦に対応して、前線を伴う低気圧が宗谷海峡付近を東北東進。850hPaで-6℃以下の寒気は宗谷海峡付近まで北上、北日本では1時間に5mm前後の雨を解析。
- ② 500hPa 5640m付近のトラフに対応して、別の前線を伴う低気圧が日本の南を東進。日本の南～南西諸島付近では激しい雨や非常に激しい雨を解析。
- ③ ①や②の低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波がやや高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 15日は、1項①の低気圧が発達しながらオホーツク海に進み、寒冷前線が北日本を通過。1項②の低気圧は日本の南を東北東進し、日本付近は一時的に西高東低の気圧配置となる。また、500hPa 5760m付近の正渦度極大域に対応して夜までに華中付近で前線が発生する。
- ② 16日は、オホーツク海の低気圧は千島近海に進み、日本の南の低気圧は、500hPa 5580m付近のトラフに対応しながら日本の東に進む。また、朝までに西日本日本海側に、夜までに東日本太平洋側にシアラインが発生。華中付近の前線は日中以降不明瞭化し、夜までに南西諸島付近に低気圧が発生。
- ③ 17日は、朝までに日本海に発生する高気圧が日本の東に移動。日本海西部のシアラインは不明瞭化、東日本太平洋側のシアライン上に夜までに低気圧が発生。南西諸島の低気圧は日本の南に進む。
- ④ 850hPaで-6℃の寒気は、15日夜は東北北部に南下、16日は西～東日本付近に南下、17日は、東北部付近まで北上。16日にかけて、オホーツク海の低気圧の影響で、北海道地方では降雪が強まる所がある。16～17日は、500hPa 5460m付近のトラフが深まりながら本州付近を通過。2項②③のシアラインの影響で西日本日本海側では16日は、東日本太平洋側では16～17日は、山地を中心に積雪となる所がある。大雪や降雪による交通障害、着雪に注意。また、北日本では15日は、東～西日本では16日にかけて、850hPaの気温が平年より5～10℃以上高くなる。北～西日本の多雪地ではなだれに注意。
- ⑤ 2項①～③の低気圧やシアラインの周辺、大陸や2項③の高気圧の南縁では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では16日にかけて、東日本では17日にかけて、西日本では16～17日は、南西諸島では17日は、強風や風雪、高波に注意。
- ⑥ 2項①～③の低気圧や前線及びシアラインの周辺では大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では17日にかけて、東日本太平洋側では16～17日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ### 4. 防災関連事項【量的予報等】
- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(18時からの24時間)：北海道30cm。
 - ③ 波浪(明日まで)：北海道・関東・東海3m。
 - ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。